



こぶし教室を紹介します。



こんな困り感、ありませんか？

先生の指示が
わからない

計画的に行動できない。
計画的に試験勉強に
取り組めない。

コミュニケーションが苦手。
友達との付き合い方が
わからない。

提出物の管理
ができない。

授業中、何をしたら
いいのかわからな
くて、パニックにな
ってしまう。

授業に集中できない。

字がうまく書けない。
ノートが時間内に書き
きれない。黒板が
写しきれない。

落ち着いて学校生活が送れない。
トラブルを起こしてしまう。

困ったとき
にどうしたら
いいのかわ
からない。

安定した生活リズム
を確立できない。

気持ちのコント
ロールがうまく
できない。

このような困り感に気付いたら、なるべく早い段階で解決していくことが望ましいです。このような困り感を解決する場所として、武蔵野市には各中学校に**こぶし教室**が設置されています。

- ・こぶし教室では、現在ある困り感に対して、一人一人に合った解決策を考えたり、よりよく学校生活を送っていきけるためのトレーニングを行ったりします。
- ・武蔵野市立第二中学校（拠点校）の先生が週1，2回、各中学校で巡回指導を行っています。生徒は1～2時間程度、自分の課題を解決していくための授業を受けています。

※1 こぶし教室では学校生活をよりよくしていくための活動（自立活動）を行う教室です（授業の補習等を行う教室ではありません）。

※2 入室には、発達検査の結果等に基づいた審査があります。審査の結果によってはご希望に添えない場合があります。

こぶし教室についてさらに詳しく知りたい方は、担任や特別支援教育コーディネーター、またはこぶし教室までお問い合わせください。



武蔵野市立第三中学校(拠点校)こぶし教室直通 0422-21-7522

特別支援教室の入室までの流れ

お子さんの状況を把握し、指導・支援の必要性や在籍学級での課題等を踏まえ、区市町村教育委員会の判定委員会において指導の開始を決定します。就学前はお住まいの区市町村教育委員会（就学相談窓口）に、入学後は学級担任等に御相談ください。

なお、入室に当たっては、発達検査（）を受けていただく必要があります。



新版 K 式発達検査や WISC-IV 知能検査など、発達の状況等を測る標準化された各種検査のことです。発達検査は、児童・生徒の得意な部分と苦手な部分分かるほか、その児童・生徒にとってより良い支援の手がかりを得ることができるものであり、特別支援教室への入室検討だけでなく、在籍学級等での支援の方針や指導内容検討のためにも活用されます。なお、発達検査を受けられる機関については、お住まいの区市町村教育委員会にお問合せください。



保護者

就学相談



保護者との面接や就学前機関等での行動観察、医師の診察などにより子供の状況を把握し、適切な指導や支援について検討します。

学級担任



在籍学級での指導上の工夫や児童・生徒の様子など

在籍学級での指導方針や児童・生徒に対する校内の支援体制 など

校内委員会



学級担任のほか、以下の教職員が参加し、在籍学級における指導や支援の内容、校内支援体制及び関係機関との連携などについて協議を重ねます。

- ◆ 校長・副校長 ◆ 養護教諭 ◆ 特別支援教育コーディネーター ◆ スクールカウンセラー など



申請

児童・生徒の在籍学級での状況や必要とする支援の程度等を踏まえ、特別支援教室において一部特別な指導が必要と思われると判断した場合、保護者の同意を得て区市町村教育委員会に申請します。

区市町村教育委員会における判定委員会

在籍学級（就学前であれば就学前機関等）における状況、障害や必要とする支援の程度を踏まえ、在籍学級から離れて指導を行うことに伴う児童・生徒の負担などについて総合的に勘案した上で、児童・生徒にとって適切な指導体制を判断します。

在籍学級での学級担任による指導方法の工夫や配慮の実施

特別支援教室での指導

特別支援学級での指導

※指導開始までの流れは、区市町村教育委員会によって異なる場合があります。